

会報

おおいた

俳人協会大分県支部

発行所  
俳人協会  
大分県支部発行人  
俳人協会大分県支部  
代表者  
小松 生長  
事務局  
大分市高崎3-13-14  
神足方(かみあし律)  
(題字:江田 居半)郵便局振替口座番号  
01740-3-24968  
俳人協会 大分県支部

## 「鶏頭を三尺離れもの思ふ」



大分県支部長 小松 生長

子規の句に「紅葉から一町はなれて夕月夜」という句があり細見綾子の「鶏頭を三尺離れもの思ふ」という句は子規、すなわち俳句に対するオマージュだと気づきました。また綾子の句は昨今の新型コロナウイルス禍の俳句界を象徴してあたかも句会や大会に参加できぬ俳人達が今改めて俳句というものを見つめ直しているようにも見えます。

大分県支部は令和二年度の五月、十月の総会や俳句大会を中止し紙上大会への変更を余儀なくされました。講師をお願いした中西夕紀先生、権未知子両先

生には大変ご迷惑をおかけしましたが、紙上にて熱意溢れ、また厳密なる選や選評をいただきお礼を申し上げます。またいつもと変わらぬ多くの投句をしてくださった会員・一般参加者の方々にも感謝申し上げます。

ところで来年令和三年度は俳人協会の六十周年であり、大分県支部の三十周年となる節目の年です。さらに第十五回九州俳句大会も大分県が開催県です。しかし、コロナ禍の終息が見えない中、九州俳句大会をこのまま進めて大丈夫だろうかという懸念が出てきました。大会までのスケジュール表や役員増員も

して準備を進めていたところでした。まず、九州各県の意見を出し、その上で大分の方針を出そうと決め、七月に事務局長がアンケートの形で各県支部長・事務局長宛に開催の是非を問いました。結果は八割の意見がこれまで通りの開催は無理ではないかということでした。(大分県の決定に一任の意見も)

各県からの回答を基にして、九州大会は次のように行うことを役員会で決めました。一月の賀詞交換会は中止すること、十月の当日大会、懇親会は中止とし、俳句大会は募集句にて行い紙上大会に変更することとし、活動した。会場の手配も済み、活動

計画など綿密なる運営が行われていたが、役員総意の下に敢えての決断となりました。その理由として県会員の平均年齢が78歳でありコロナに感染すれば危険な年齢であり、仮に感染予防をした上で大会の準備にあたるにしても感染症の恐ろしさは計り知れません。これでは大会の開催、運営は無理だと判断しました。それに参加する九州各県の感染者の増加も危惧されます。今回は何より会員の皆様の生命の安全と健康を第一としたいと思えます。ご了承ください。

当然ながら来期の県支部の総会、俳句大会も今年同様紙上開催となります。

また支部では今年度の計画で報告した通り三十周年を迎えます。それを記念して、今までの歩みを記録するとともに会員全員参加の合同句集を「三十年史」として刊行します。発刊日は令和四年五月を予定しています。この会報の三頁に要項を記載していますのでご覧下さい。また投句用の封筒を同封していますのでお使い下さい。皆様のご参加ご協力をよろしく願います。

# 令和二年秋の俳句大会入選句

**特選**  
投げ上ぐる空の青さよ懸大根

大分市 房前和加子

権 未知子 選

**準特選**  
万緑や牛はゆつくり足たたむ  
月光に射貫かれ空蟬となりぬ  
母と子の顔の触れあふ赤のまま

大分市 藤井 淳子  
大分市 睦ほたるこ  
由布市 佐藤 豊治

## 入選

ひと夜だけ過ごしてみたき花野かな  
親らしく子らしく月を仰ぎけり  
待宵や風の触れゆく椅子二つ  
芍薬の百の一輪夫に剪る  
ふるさとの風の私語聞く花野かな  
利かん気の風のふうせんかつらかな  
若妻の会も老いたり新豆腐  
ポストとは長いつき合ひ木の葉落つ  
藤は実には風のいできし夕明り  
走馬燈母の余生を照らしけり

豊後大野市 竹下 邦子  
宇佐市 松本 公節  
大分市 吉富 敏子  
大分市 光成 えみ  
大分市 矢野 安鎮  
大分市 今宮 嘉子  
大分市 富尾 和恵  
大分市 猪原アヤ子  
別府市 亀田多珂子  
大分市 金澤 諒和

## 選を終えて

権 未知子



この大変な状況において、大分県支部の皆様のご意欲的な素敵な作品に触れたことを心より感謝申し上げます。季語を大切に、楽しんで、楽しんで選をさせて頂きました。季語を大切に、こちらが大いに勉強させて頂いたような気が致します。句を読ませて頂くこと、そして僣越ながら選ばせて頂くことの喜びを実感しました。必ずや近々、皆様にお目にかかれますことを。

## 選評

### 特選

房前和加子  
躍動感があり、素晴らしい作品でした。農作業を詩に昇華させ得た句といえましょうか。こういった作品にめぐり合えたことを心から嬉しく思います。

### 準特選

藤井 淳子  
万緑や牛はゆつくり足たたむ  
のんびりとくつろぐ牛、そこに作者は夏の喜びを見出しています。無欲であり、読者の心のなごむ作品です。

睦ほたるこ  
月光に射貫かれ空蟬となりぬ  
「空蟬」が先にあるのではなく、「月光」ゆえに空蟬になったのだという把握が素敵です。まことに詩情あふれる句でした。

佐藤 豊治  
母と子の顔の触れあふ赤のまま  
たしかに、「赤のまま」をよく見ようとすると親と子の顔は触れそうになるもの。そんな日常の一コマをつつましく切り取ってきた作品でした。

### 入選

夜のみ「ひと夜だけ」 案外怖いかもしれませんが、夜の「花野」は。しかし、それを夢想する作者の心を私は大切にしたいと思いません。

「親らしく」 多くを語らず、しかし、それぞれの月を見る。愛情を声高に語るこなきよさがあるといえましょう。

「待宵や」 ぼつんと置かれた「椅子二つ」に少し謎があり、面白い。ものをいかに配するかのお手本のように感じられました。

特選をいただいで



投げ上ぐる空の青さよ懸大根

房前和加子



この度は「群青」代表・俳人協会理事・Eテレ「NHK俳句さく咲く」選者の權未知子先生の特選を頂きたいへん有り難うございました。この句はNHKの山下かず子先生の俳句教室で作った中の一句です。

私の古里の風景です。私は今年初めて大根を干し、沢庵漬けに挑戦しました。干した大根がつの字に曲がれば漬け頃とか聞きました。

近年、暮しを飲み込むような豪雨の傷も癒えぬ中、また終息のないコロナ禍の中にあり「鬼滅の刃」のねづ子のように皆のマスクがとれ、そして笑みがこぼれます様にと思えばかりです。気持ちが沈みがちになる日常でしたが、この度、權先生の特選を頂きたいへん感謝しております。

これからも季節の移ろいに小さな楽しみを見つけ俳句を続けて行きたいと思えます。有り難うございました。

俳人協会大分県支部

「三十年史」刊行の俳句募集



大分支部は先日役員会で、大分県支部「三十年史」の刊行を以下の要領で決めました。

- 発行予定 令和四年五月頃
- 装丁 A五判上製本（二十年史並）
- 内容 会員掲載
- 経費 ①俳句十五句 ②百字随想 ③顔写真  
刊行の総経費を六十三万円とし、百八十部程度作成。一冊の価格を二千元とし、残余を支部会計で補填。
- 原稿締切 令和三年五月底

同封の返信用封筒で送付下さい。

「芍薬の」 たくさん咲いた「芍薬」の、おそらくは最も美しい一輪をぶつんと剪ってあげた作者。牡丹とは全く異なるこの花の清楚さが、配偶者への愛にも通じます。

「ふるさとの」 「風の私語」がとにかく素敵。句の背骨としての中七の意味を教えてくださいました作品です。

「利かん気の」 これは楽しい作品。この植物を思い浮かべるとき、「ああ、そうかも」と思う人が多いでしょう。華のある句です。

「若妻の」 かつては初々しかった奥様方で構成されていた会も今やすっかり古妻ばかり。しかし、それがこの句の楽しさといえましょうか。季語の美しさが光っています。

「ポストとは」 俳人ならば全ての人が頷くはず。季語は少し寂しいですが、それもかえって句に実感を添えています。

「藤は実に」 とても綺麗な作品です。ゆるやかな調子、言葉のバランス、なかなかの作品でした。

「走馬燈」 どういう母上かにつき一切言及されていないのがいい。あかりの切なさ、つましさが読者の胸にしみてきます。

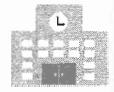
この度、「三十年史」刊行の手伝いを支部長より命じられました。改めて「二十年史」を紐解いてみますと、句歴の浅い私ですが、当時の人々の様子が蘇ってまいります。平成四年に大分支部は発足していますが、当時から参加され、今なお矍鑠とされている方、物故された方、共通しているのは句が若々しく躍動されていることです。

前回は本の単価が高額に過ぎた感がありましたが、今回は「会員に利益還元を」という支部長の強い意向で廉価となります。

「歴史は未来」です。会員全員の参加をお願いします。

松本公節

## 俳句で「二校一特色」



吉賀京子

小学校教員として、三十八年勤めました。そのうちの五年間は教頭として勤めました。五年間で三人の校長にお仕えしました。三人目の校長は女性校長でした。

その校長は津久見市の四浦半島で子どもたちに俳句を教えたというお話をされ、児童朝会の際には二十四節気の話や、秋の七草を持って来て見せながら俳句のお話をされていました。私は児童たちと共に、俳句を通して、自然の美しさ、素晴らしさを改めて教えられました。児童たちは直ぐに素晴らしい句を詠むようになりました。

翌年新任校長となった私は「二校一特色」として、感性を育む力のあつた俳句を取り入れることにしました。年度始めの職員会議で週一度「俳句朝会」を提案し、職員から賛

同を得ました。「俳句朝会」は児童にも好評で、「できるだけ一つの句には季語一つ」と合言葉のように言い合いながら廊下を歩いていたのが可愛かったです。

また、当時「豊っ子」という児童生徒の俳句誌が発行されていたので、それに投稿をしていました。児童の感性は素晴らしく、感動させられる句を多く詠むようになりました。ほとんどの子が「豊っ子」に入選し、保護者から子どもが自信を持つようになったという話も聞きました。「豊っ子」の表紙を飾った「つぼみから椿の花が生まれそう」という句は今も忘れられません。私自身は気づかなかつたこの句の素晴らしさを倉田絃文先生に見つけて頂くことができました。

俳句朝会を通して、職員も変わって行きました。比較的寡黙な男性教諭が「今日家を出る時、寒くなつたなあと感じた。最近季節

の移り変わりに目が向くようになった。」と俳句朝会で話すこともありました。先生方も自身の句を発表するようになりました。一人の女教師が「裏山の白梅ほころび我も生く」という句を発表しました。この方は少し前に父親を事故で亡くしたのですが、悲しいけれど「この白梅のように強く生きていく」と決意を話していました。立派な女教師でしたがその後、病（癌）に侵され四十代の現職教諭で亡くなりました。強く生きようとしていた彼女の俳句の心はしっかりと今も思いを伝えていてと思います。改めて俳句の持つ力を感じます。

地域には「学校便り」「児童句集」などを回覧して頂き、地域の方々からの応援も頂くようになりました。「俳句の掲示板を寄贈したい」と立派な掲示板を二台も頂きました。

俳句を通し、新任校長として大いに羽ばたき自信を持つことができました。

二年后に臼杵市内の小学校に転勤し、そこでも「俳句朝会」を取り入れました。ここでも子どもたちの感性は瑞々しく、教えられた

り感動させられたりすることが多かつたです。児童句集を発行し、県図書館の蔵書にして頂いたり、地元の新聞にも取り上げて頂きました。「二校一特色」に俳句を取り入れて本当に良かったと思っています。

退職してから早速地域の句会に入会しました。句会の皆様の素晴らしい句に出会い、俳句の素晴らしさ、奥深さを改めて思い知らされています。

まだまだ未熟ですが、これからも自分自身の有り様、生き様を考え、表現するための俳句を詠んでいきたいと思っています。



## 句集紹介

## 河野美千代句集「国東塔」

令和二年六月発行  
コールサック社

河野美千代さんは現在俳句結社「沖」大分の副支部長をされています。私も同じ結社の一人として今回この役を仰せ付かりました。が、何分力不足の感が否めませんが、従って美千代さんの経歴ご紹介と、厳選された約三百句の中から私の心に留まったお句を取り上げさせて頂き、後は皆さまにこの句集を直接お読みいただければ、と願っております。

凛と立つ国東塔や春まらか  
句集「国東塔」はこの句より命名されました。国東塔はお住いである国東地方に数多く見られる宝塔で塔身に蓮華座が備えられた美しい姿で国東の文化財ともいえます。この地の中央部にある両子寺は六郷満山の総寺院として有名で、境内には「沖」創刊者能村登四郎先生の

国東や枯れていづくも仏みら

の句碑が、「沖」大分田邊支部長などの尽力により平成十二年に建てられております。

美千代さんが俳句を始められたのはこの安岐町両子を本拠地とする學溪句会に平成十年ご実兄の林一郎さんの勧めで入会、次いで大分市で行われる「沖」大分へとその活動範囲を広げられました。

ここでお兄さまの林一郎さんに少し触れさせていただきますが、林さんもこの俳人協会大分県支部の役員活動を平成十八年より約十年間務められました。平成三十年惜しくもお亡くなりになられ、私共はその誠実で温厚なお人柄を偲び、心よりお悔み致しました。

国東に住むは端居のこころして  
鬼会の里おにの涙か片しぐれ  
ふるさとに医学の偉人星涼し  
たくましき仁王の四肢や寒波くる  
美千代さんが産土を誇りとし愛しむ心情がよく現れていると思います。

もろもろの管抜き去って死者涼し  
脈をとる一分間の秋思かな  
秋の夜や救急室より電子音  
水中花妊婦は水の匂ひせり

美千代さんは国東市民病院の看

護師として定年まで勤務されました。一句目「もろもろの」は死者の悲しみを共有しつつ慈しみの念が「涼し」に込められていると思えます。四句目「妊婦は水の匂ひ」は逆に生命誕生への歡喜の念が。いずれも長年の経験から引き出された珠玉の言葉だと思えます。

白河の関の暗がり蚯蚓鳴く  
盤梯山の裾野や蕎麦の花あかり  
電柱なき古き町並み美濃時雨  
四郎像頬にひとすじ冬の雨  
吊り橋は山のバンダナ初紅葉

私共の結社「沖」では中央の企画として年一度全国の名勝地を選び句会及び吟行会が行われます。これとは別に九州大会もあり、美千代さんはそのいずれにも熱心に参加され、常に好成績を上げられています。前三句は全国詠、後の二句は九州大会での作ですが、その土地ならではの風景が生き生きと蘇ります。

瓜立ちを覚えたる子に天高し  
遊ぶ子は香車のごとく桜東風  
大根は花となりけり子の門出

美千代さんは母として三人の子供さんを育てられ、現在は常にごき理解、協力者でいらっしやるご

主人との生活を送られています。これ等の句は当時の回想でしょうか。

俳人協会大分県支部の年毎の俳句大会ではこれまで何度か入選を果たされ、中でも平成二十八年「秋の城下町白杵吟行」ではこの句集には入っていませんが

断崖も仏に見ゆる霧の中

で選者岸原清行先生の特選の栄を得て、「大きな景の句ですな」とのお言葉を頂き感慨一入だったと喜びを記されています。「国東塔」の中にも

由布山鶴見山枯野の裾を分からあふ  
湯煙は地球の吐息春の風

などがあり、自然と対峙し大景を把握する詩心をお持ちだと思えました。

美千代さんをひとことと言えば、たゆまぬ努力の人です。今回永年の努力の結晶である句集の上梓、お喜びいかばかりかであったと心よりお祝いを申し上げます。

今後は健康にご留意の上、益々のご活躍を願っております。

「沖」大分支部 廣瀬倭子



### バトンタッチ

会計 岩波千代美

「お金はだいじだよー」どこかで聞いたコマージュアルの一節である。まさに去年より痛感している。昨年5月から前任の光成えみさんより受け継いだ俳人協会大分県支部の会計係のことである。最も苦手な分野だとの自覚のもと、どうして私なのでしょう？のなぞが解けないまま今日に至っている。光成さんのプロ級の会計処理を目の当たりにした引継ぎの日、私は眩暈が止まらなかった。何とも突然の惨事である。まずは真似る事より始めよ、とにかく前年度の収支・出納簿をコピーしてその上から赤鉛筆で今年の分を置いてゆくことから始めた。どうか何事も前年どおりにいきますように、ハブニングなんて起りませんように・・・と祈るばかりであった。どきどきの初年度が終わりに近づいた頃、収支報告書と来年度の予算書を作成するため何度も光成家へおじゃまして助けて頂いたのはこの上もなくありがたかった。優しい先輩に恵まれ何とか一年が終わった。そんな次の年に、今年のようなハブニングだらけの日々が待っていないようとは・・・。

新型コロナウイルス感染症のため、総会とは中止、秋の吟行大会も投句選のみとなってしまった。会費納入も役員間の連絡も何から何まで郵便局のお世話になってる。会員の皆様には何かとご不便をおかけしています。が会計の仕事は郵便局と

銀行が生きている限り頑張つてさせて頂きますのでご協力宜しくお願い致します。

### 役員になつて思う事

幹事 首藤 加代

三年前に幹事になり役員会の一員になりました。年四回の役員会、五月の総会、春と秋の俳句大会等に関わっています。役員会での決定事項は、「会報おおいた」に掲載され会員に周知されます。

コロナ禍にあつて、今年度は異例の年となりました。例年五月に行われる通常総会と俳句大会が中止となり、募集句での開催となりました。いつもは特にお知り合いではなくとも、年配の方々の参加が自分の目標にもなり元気を頂いておりましたが、今年は寂しい限りでした。支部の年会費はこの通常総会の時に納めて頂いていたのですが、それが出来ず会計担当者は大変苦労されたと聞き及んでいます。

五月に続き、秋の俳句大会も中止となりました。コロナの終息は先が見えないという事で、募集句のみで行うので、役員会で苦渋の決断がなされたのです。

句会が中止となつても事務局は応募用紙等の発送、投句の整理・印刷など多忙を極め、加えて来年は二年毎の持ち回り九州俳句大会が大分の担当となつていて、計画的に作業を進めています。更に「三十年史」刊行も重なり忙し

は変わりません。コロナ禍の現在、会は形を変えて対応しています。年二回八月と十二月に発行される「会報おおいた」は、役員会と会員を繋ぐ役割をしています。必ずご覧下さい。

### 俳句の楽しみ

幹事 松本みゆき

俳句を始めてから十七年、俳句は私の生活に欠かせない一つのアイテムとなつていきます。朝起きてから寝るまで、いや夢の中までが俳句の題材となり、その一句一句が思い出のパスワードとなつていくのです。

私の俳句の楽しみは二つあります。一つは、五感から得たものを「私」というフィルターを通してどのよ様な表現をするのか、十七音の中心の季語を使い、どう収めていくか、まるでパズルのピースを埋めて完成させるような作業を楽しんでいます。

もう一つは、句会、俳句大会。俳句は共感の文学です。お互いの俳句を共感し合い、認め、勉強していくことは、句会、俳句大会の醍醐味であるといえるでしょう。

今、世界を脅かしているコロナ禍の中、こういういた大会が、次々と中止に追い込まれています。早くこの災禍が終息することを願います。その時のために俳人協会大分県支部の役員としての務めを果たしたいこうと思つています。

### 編集後記

▼後になつて分かることがある。単純なことは奥深く、奥深いことは親しみ易く。

▼自粛を強いられる中で目についたのがNHKのEテレ番組だった。幼児向番組「にほんごであそぼ」は、当代の若手歌舞伎役者や能・狂言の第一人者が子どもたちに動作でコトバを教えている。幼い脳の中には生き生きと「にほんご」が残つてゆくことと思う。

別の日には、「枕草子」の名文を芸人さんが清少納言に扮し映像化して、少年少女に古典を身近にさせている。

▼ずっと遠出が出来ずにいたら近場へ目が向いた。政府・自治体のサービスを活用して日頃は泊ることのない県内で地元の素晴らしい景観が堪能された。なかなか捨てたものではないなあ。

(律)

### 深悼す

直野秀子氏

令和二年八月一日逝去

94歳

俳人協会大分県支部

会報「おおいた」第四十二号

令和二年十二月一日発行

発行人 俳人協会大分県支部

編集人 小松 生長

かみあし律

事務局 千八七〇一〇八七二

大分市高崎三二一三一四

かみあし律

印刷所 〇九七五四六一二九三四

印刷所 榊大分出版印刷